



S-KYT 研修を実施して



静岡県消防協会田方支部
常任幹事 轡田 敏秀

1 はじめに

静岡県消防協会田方支部は、5市1町（熱海市・伊東市・伊豆市・伊豆の国市・三島市・函南町）で構成されています。

当支部は、静岡県東部「伊豆半島」の中央部に位置し、伊豆半島の成り立ちは、約2,000万年前にさかのぼります。当時の伊豆は、本州からはるか南のかなた数百キロの太平洋の海底に沈む火山群でした。その後、フィリピン海プレートの動きに合わせて日本の本州に接近、衝突により現在の伊豆半島の形になりました。

各市町の特徴は、熱海市・伊東市は、ともに古くから温泉の恵みとそれを背景に育まれた文化により栄え、温暖な気候と風光明媚な自然景観を有していることから、明治以降、多くの政治家、実業家、そして文学者・小説家などに愛されてきました。

伊豆市は、豊かな自然に生まれ、わさびや椎茸は日本有数の産地であり、また、天城山から発する狩野川が流れ、アユの友釣りが盛んです。

伊豆の国市の韮山反射炉は、幕末に鉄製大砲を鑄造するために築造された溶解炉で、日本の近代化を物語る「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として、平成27年の世界遺産登録を目指しています。

三島市は、東海道と下田街道、田方平野へ、人と文化が交差した要衝の地です。また、うなぎは、富士山の湧水にさらされ、味も良く三島名物になっています。

函南町は、平井スイカをはじめとした農産物があり、丹那地区では、酪農王国で知られ、丹那牛乳や乳製品が特産となっています。

このことから管内の6市町は、それぞれ歴史や文化、自然や食、そして温泉地としても知られています。

管内の人口は35万人に対し、年間、2,600万人もの多くの観光客の皆様が訪れ、管内の6消防団、あわせて、2,788人（うち女性消防団員50人）の消防団員で、地域住民はもとより観光客の皆様の安全・安心を守っています。

2 田方支部女性消防団員連絡会の概要

各消防団の女性消防団員の活動の充実と連携強化、女性消防の効率的な運営を図ることを目的に、平成22年度に「田方支部女性消防団員連絡会」を設立しました。

主な活動は、女性のもつきめ細やかさなどソフトな感性を生かし、高齢者世帯宅の防火訪問、予防広報活動をはじめ、救命講習、花火教室での指導、消防演習や各種訓練、災害時における応急救護活動など、多岐にわたる分野で重要な役割を担っています。

3 S-KYT 研修開催の経緯

女性消防団員連絡会では、女性消防団員の公務災害防止・安全対策を第一に考え、公務災害防止研修をはじめとした事業を積極的に行っています。

これは、仕事や家庭、子育てをしながら消防活動を行っている女性消防団員が、消防活動に潜む危険を見抜く力を養い、安全行動の知識を習得するため、消防団員等公務災害補償等共済基金の助成を受けて消防団員危険予知訓練（S-KYT）研修を実施させていただきました。



講義に聞き入る参加者



タッチ・アンド・コールの様子



実技中の様子



指差し唱和の様子

4 研修の様子

平成 25 年 9 月 29 日(日)熱海市「ホテルニューアカオ・ロイヤルウイング」において、消防団員危険予知訓練(S-KYT)研修の3時間コースを開催し、女性消防団員 38 名が参加しました。

研修は、他団の女性団員とのグループメンバーで、最初は緊張した表情でしたが、志を共にする仲間と和やかに進みました。

はじめは「ヨシ！」の掛け声に対して恥ずかしさもありましたが、声に出してみることで気合が入り、活発な意見を交わすなど、グループには、団結力を感じました。

また、危険予知の呼称を具体的に、前向きな言葉で出すことは難しいようでしたが、明るく前向きに取り組む姿勢は心強く感じました。

「危険予知の想像は無限でリスクファクターは、

いつでもどこでも潜んでいる。」

日頃からの安全行動の大切さを習得するとともに、講師をしていただいた上木原指導員、安江指導員にアドバイスを求めるなど、積極的な姿が見受けられ、たいへん有意義な研修でありました。

5 今後について

東日本大震災では、避難所の開設や高齢者の支援活動等において、多数の女性消防団員が活躍しており、近年、女性消防団員の果たす役割は重要であると認識しています。

平成 26 年度も、女性消防団員の安全対策と活動しやすい環境を築くため、安全管理セミナーを計画しています。

結びに、日頃から消防団の運営に御支援をいただいている消防団員等公務災害補償等共済基金に感謝を申し上げます。